



## Contents

新年のご挨拶 .....	2	がん患者会(お茶々サロン)を開催しました .....	10
新任のごあいさつ・古賀名誉院長が瑞宝中綬章を受章 .....	3	院内災害訓練 .....	11
第79回国立病院総合医学会参加報告 .....	4	クリスマスコンサート .....	12
病院祭・第56回嬉看祭を開催しました .....	9	令和7年度誓いの式 .....	13
緩和ケア委員会主催令和7年度地域連携ケース検討会 .....	10	外来担当医表 .....	14

### 基本理念

#### 「命と心をつなぐ医療」

「命と心をつなぐ医療」の実践には、患者の身体的苦痛を取り除くだけでなく、精神的苦痛も理解し和らげる努力が重要である。

また、患者や家族と良好な信頼関係を構築し、安心して治療を受けられる環境づくりが大切である。



# 新年のご挨拶

嬉野医療センター院長 力武 一久

新年あけましておめでとうございます。平素より当院の診療・運営に対し、格別のご理解とご支援を賜り、心より御礼申し上げます。

昨年は、ロボット支援手術や高機能放射線治療装置の導入などを行って、＜地方でも全国レベルの治療を＞を合言葉に日々の診療に取り組んでまいりました。今年度は、診療報酬改定が控えており、医療を取り巻く環境は大きな変化の時代に入っています。そのような中、当院では医療の質と安全を最優先にしつつ、医療DXの推進による診療体制の充実や業務の効率化に取り組んでまいります。これにより、患者さんにとって、より安心で利便性の高い医療サービスの提供を目指してまいります。

また、持続可能な医療提供体制を維持するため、経営改善にも計画的に取り組んでまいります。健全な経営基盤のもとでこそ、安定した医療の継続が可能であると考えております。

本年も地域の皆さま、関係機関の皆さまと連携を深めながら、信頼される病院づくりに努めてまいります。皆様の変わらぬご支援とご協力をお願い申し上げますとともに、新しい年が皆さまにとって健やかで実り多い一年となりますことを心より祈念し、新年のご挨拶といたします。



# 新任のごあいさつ



## 心臓血管外科

永島 聖恭

心臓血管外科医師  
出身大学 佐賀大学  
令和3年卒

専門分野 心臓血管外科

専門医 透析バスキュラーアクセスインターベンション治療医学会  
VAIVT 認定専門医

認定医 下肢静脈瘤に対する血管内治療実施基準による実施医

皆様のお役に立てるよう頑張ります。よろしくお願い致します。

## 栄養管理室

主任栄養士 松尾 友里恵



性格 よく笑う・責任感がある

長所 傾聴する・気配りができる

好きなこと おいしいものを食べる

好きな食べ物

パン（ハードよりふわふわ系）・チーズ

趣味 ドラマを早見で見る

特技 すぐどこでも眠れる

一言コメント 1月より熊本南病院から異動してきました主任栄養士の松尾です。現在、4西病棟、早期栄養介入を担当しています。前病院とは異なるICUや救命病棟での知識不足を痛感しつつ、スタッフの皆様が丁寧に対応してくださり感謝しています。患者様の細やかな栄養管理に努め、少しでも早く頼っていただけるよう、日々頑張っています。好き嫌いは多いですが食べることが大好きなので美味しいものを教えてください。見かけた際には気軽に声をかけていただけると嬉しいです。宜しくお願い致します。

## 放射線科

放射線技師 松永 明花音



性格 明るい

長所 ポジティブ

好きなこと 旅行

好きな食べ物 お寿司

趣味 スポーツ観戦

特技 バレーボール

一言コメント 帝京大学を卒業いたしました。ご迷惑をおかけするとは思いますが、精一杯頑張りますので、よろしくお願い致します。

## 長年の功績に感謝を込めて

# 古賀名誉院長が瑞宝中綬章を受章

当院名誉院長 古賀満明先生が、令和7年春の叙勲において瑞宝中綬章を受章されました。

瑞宝中綬章は、日本の勲章の一つで、国や公共に対して長年にわたり功労を重ねた方に授与される栄誉です。主に行政、教育、医療、福祉など公共性の高い分野で顕著な功績を挙げた方が対象となります。

今回の受章は、先生の長年の努力と情熱が国から高く評価された証であり、私たち職員一同、心よりお祝い申し上げます。

古賀先生のこれまでの歩みと功績を胸に、当院は今後も地域に根ざした医療を提供し続けることができるよう尽力致します。



当院ではこの栄誉を祝し、10月4日に祝賀会を開催し先生の功績を称えました

# 第79回 国立病院総合医学会 参加報告

## ベストポスター受賞のご報告

小児科医師 森田駿

この度、第79回国立病院総合医学会においてベストポスター賞を受賞いたしましたので報告いたします。

当日は、研修医の先生の発表を親のような眼差しで聞いたり写真を撮るのに奔走していましたので、自分の発表は知り合いがいな中での発表でした。(写真も受賞時発表や受賞時のものがなく申し訳ありません) 発表したものは「小児科医が取り組む地域貢献活動について」というタイトルで、私が病院外で行っている社会貢献活動のまとめを発表させていただきました。小児科医としての仕事は、子どもの病気を治すことだけではなく、子どもたちを取り巻く社会的な問題についても子どもの代弁者として、その解決にあたることを求められており、私はそれを病院外の様々な活動としてこれまで尽力してきました。はじめは地域の保育士さんや保健関係者向けへの後援会から始まり、ここ数年は“かしまこどもフェス”という子ども向けイベントを立ち上げ、子どもたちが楽しむイベントを作る中で、多職種での関わりを継続したり、イベント内に医療系ブースを設置することで社会と医療の繋がりを作ることを行っています。今後もこのような社会貢献活動を継続するとともに(来年もかしまこどもフェスを開催する予定ですので、ぜひ遊びに来てください！)、座長の先生からのコメントでは「今後関連する地域や人々を広域化し、こども社会の声の集約化につながるような活動になればいいですね」とのコメントがありましたので、今後は鹿島市だけでなく嬉野市も巻き込むような形を模索していきたいと思います。

最後になりますが、今回の発表や私の院外活動にあたり院内の勤務を一緒に守っていただいている小児科スタッフの皆様、院内スタッフの皆様には改めて感謝申し上げます。誠にありがとうございました。今後ともご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。



## ベストポスター賞を受賞しました

5西病棟 看護師 碓 真優 山口ひかり

この度、国立病院総合医学会においてベストポスター賞を受賞しましたので報告いたします。

今回、私たちは「入院中の患児に付き添う家族が抱える負担感」という演題で発表しました。小児科病棟では入院治療を受ける子どもの精神的安寧を図る目的から家族に付き添いを依頼しています。しか

し、付き添いによって家族が身体的・精神的負担を抱えてしまうケースも少なくありません。そのため、子どもに付き添う家族がどのような負担を抱えているのか明らかにし、今後の家族看護に活かすことを目的に、未就学の子どもに付き添う家族へアンケート調査を実施しました。アンケート結果より、家族の抱える負担感のなかで最も多かったのは、「家族へ愛情を注げないことに伴う苦痛」でした。次いで、「幼いきょうだいがいる家庭ほど、負担感が強い。」という傾向もみられました。付き添う家族は、入院中の子どものそばにいてあげたいという思いと同時に、自宅に残してきた家族との時間も大切にしたいという葛藤があり、ほかの家族に迷惑をかける申し訳なさも感じていました。今回の研究で明らかになったことを受けて、家族の適応状況を見極めながら、今までの家族看護をさらに充実させていけるよう励んでいきたいと思えます。

発表後には、「負担感を目に見えるデータとして数値化していて客観的にわかりやすかった。」との感想をいただきました。

学会発表は初めてであり緊張もありましたが、小児・成育医療に関する他の研究発表を聞くことができて自身のこれからの看護に活かすための学びにもなりました。

看護研究においては、自部署のスタッフの皆様、ご指導いただいた先生のご協力もあり、無事に研究発表まで行うことができました。ありがとうございました。



## ベストポスター賞を受賞しました

手術室看護師 古川冬矢

この度、第79回国立病院総合医学会においてベストポスター賞を受賞しましたので報告いたします。今回、私は「手術室看護に対する患者満足度調査の実施～手術室看護の質向上を目指して～」という演題で発表しました。

当院手術室では、全身麻酔症例の術前訪問はほぼ実施できていますが、手術室での看護師の関わりや手術室環境に対する評価はできていませんでした。手術室看護における患者満足度を調査することで課題や改善点を明らかにし、手術室看護の質向上に繋がりたいと考え、全身麻酔で手術を受けた成人患者を対象にアンケート調査を実施しました。アンケート結果より、術前訪問、術中看護において、看護師の説明や関わりについては患者が満足を得られる看護を提供できていることが分かりました。術後訪問においては、訪問のタイミングに配慮した関わりが課題であることが明らかになりました。手術室の環境における満足度は他より低い傾向でしたが、



環境を意識する余裕がなかったこと、今回のアンケート形式では答えにくかったことが要因として考えられました。今回の研究で明らかになったことを受け、今後はこれら課題の改善に努め、手術室看護の質向上に繋げていきたいと思えます。

今回の発表までに、看護部長、看護師長、部署スタッフの皆様の協力、アドバイスをいただき、視覚的に分かりやすく、内容がスムーズに伝わるものに仕上げることができました。発表当日は、ポスター前に人だかりができておりとても緊張しましたが、質疑応答も経験し達成感が得られました。今回の看護研究・発表にご協力いただいた部署スタッフをはじめ、多くのスタッフ方に感謝致します。ありがとうございました。



## 第79回国立病院総合医学会ベストポスター賞受賞のご報告

栄養管理室長 金子友美

この度は、第79回国立病院総合医学会にてベストポスター賞を受賞いたしましたことをご報告いたします。

今回私は、病院サービスのセッションにおいて、「魅せる病院食を目指した九州グループ管理栄養士達の挑戦」という演題で九州国立病院管理栄養士協議会の知識習得研修で取り組んだ「食事の魅せ方」についての報告を行いました。当協議会では、会員のレベルアップを目指し、研修会や学会を開催しており、会員からの要望に基づき、フードコーディネーターによる食事の魅せ方に関する研修を実施いたしました。

研修では、病院食を美味しく見せるための方法を、管理栄養士、患者、病院(企業)の三つの視点から考察しました。特に「しずる感」という言葉に着目し、盛り付けや写真の撮り方、カードの配置など、視覚的なアプローチの重要性を学びました。

今回の取り組みを通じ、患者様が味覚だけでなく視覚的にも「美味しい」と感じる食事を提供できるよう、日々努力を重ね、適切な栄養管理を継続してまいります。

最後に、受賞にあたり、快く学会へ送り出してくれた栄養管理室スタッフ、支えていただいている病院の皆様、そして九州グループ管理栄養士の皆様に、心より感謝申し上げます。



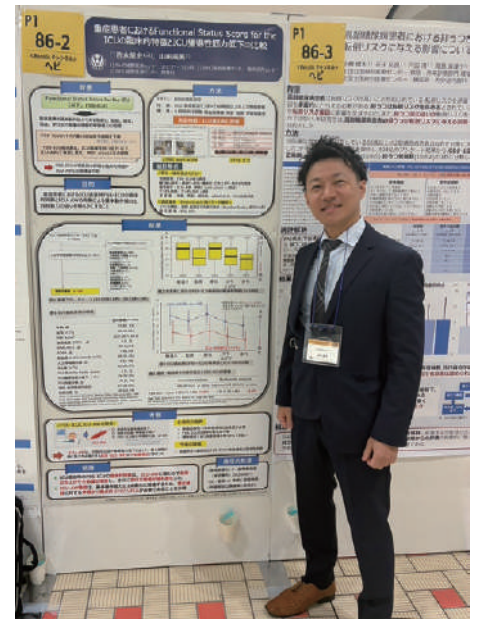
# ICU重症患者の身体機能の研究でベストポスター賞

リハビリテーション科 吉永龍史

今回、「重症患者におけるFunctional Status Score for the ICUの臨床的特徴とICU獲得性筋力低下の比較」についてポスター発表しました。

本研究は、ICU・救命救急センターで人工呼吸器を装着した144例の重症患者において退室時の寝返り・起き上がり・立ち上がり・立位・歩行の介助量を定量的に評価し、ICU獲得性筋力低下(ICU-AW)の有無で比較しました。ICU-AWとは、集中治療を必要とする重症患者において全身の炎症反応などにより生じる四肢筋力低下を指し、回復後の自立や生活の質に大きく影響することが知られています。その結果、ICU-AWの有無に関わらず起き上がり・立ち上がり動作の介助量が増加し、さらには歩行の介助量が最も悪化していたことを明らかにしました。よって、身体機能の改善には特に起き上がり・立ち上がり動作について人工呼吸器管理中においてリハビリの強化が必要であることを示唆しています。今回、学会発表前には、ICU・救命救急センターの医師・看護師さんへ本研究のプレゼンテーションを行い、意見交換および情報共有を実施しました。今後は、4西病棟での早期離床を積極的に取り組むとともに、多施設後方視研究で歩行自立の予測指標を作成する試みです。

本成果は、当院リハビリテーション科の皆さまのご理解とご協力の賜物であり、ここに深く感謝申し上げます。



# ベストポスター賞を受賞しました

2年次研修医 野口美貴

この度、第79回国立病院総合医学学会にてベストポスター賞を受賞しましたのでご報告いたします。今回、私は【心不全を契機に診断されたオスラー病に伴う肝動静脈瘻の一例】というテーマで発表を行いました。

本症例は放射線科での研修中に経験したもので、非常に特徴的な所見を呈していたCT画像を中心に症例報告としてまとめました。普段のカンファレンスや研修医勉強会では臨床経過を中心に発表することが多い中、今回は初めて「画像提示を軸とした発表」という新しい形に挑戦しました。どのように構成すれば伝わりやすいか、抄録作成やポスター案制作の段階から試行錯誤を重ねましたが、指導医の先生のご助言をもとに推敲を重ねるうちに、自



分の中で伝えたいポイントが明確になり、納得のいくポスターを完成させることができました。

発表当日は、昨年の学会での経験も活かし、落ち着いて発表に臨むことができました。他施設の先生方からも質問やコメントをいただき、議論を通して学びを深めることができたことも大変貴重な経験となりました。今回、ベストポスター賞という形で成果を評価いただけたことは大きな励みとなり、自信にもつながりました。

最後になりますが、本症例の発表に際して、本症例に関わられた主治医の先生方、そして手厚くご指導いただきました放射線科の福井先生に心より感謝申し上げます。また、学会準備を支えてくださった教育研修部の皆様にも深く御礼申し上げます。

## ベストポスター賞を受賞しました

2 年次研修医 久原楓

この度、第79回国立病院総合医学会においてベストポスター賞を受賞しましたのでご報告いたします。今回、私は呼吸器疾患(外科治療)のセッションで「Hamartomaの経過観察中に肺癌を合併した一例」というテーマで発表しました。

肺過誤腫(Hamartoma)は良性の疾患でありそれ自体が悪性化することは稀ですが、これまでの症例報告で過誤腫が存在した場合に肺癌の頻度が高くなることが報告されています。

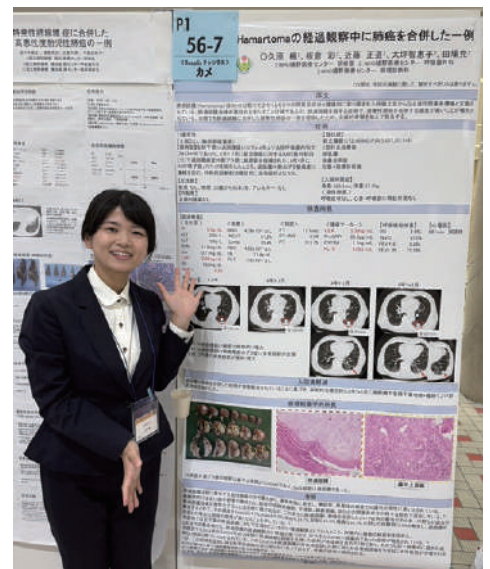
本症例も肺過誤腫の定期フォロー中に、同一肺葉内に肺癌を疑う病変が出現し、診断目的に左肺下葉切除を行いました。

当施設では2012年から2024年の13年間に肺過誤腫と肺癌を合併した症例が本症例を含めて7例であり、そのうち同一肺葉内に認めた症例は7例中5例を占めていました。このことから肺過誤腫の存在は近接した肺に何らかの発癌誘導を引き起こす可能性が示唆されますが、この仮説を証明し得る科学的根拠は未だ明らかになっておらず、今後の研究に期待されています。

本症例では肺過誤腫は良性の疾患ではありますが、悪性腫瘍の合併の頻度も高いことを考慮して定期的に画像フォローを行い、癌を疑う病変が出現すれば、診断目的にも外科的治療を勧める必要性を学びました。

国立病院総合医学会での発表は去年に続き2度目であり、指導医の先生が抄録からポスター制作、質疑応答まで手厚くサポートしてくださったこともあって、本番では殆ど緊張することなく自信を持って発表することができました。今回の経験で症例に対する理解も深まりましたし、研修医の段階から学会発表の機会を頂けたことは今後の研鑽の上で大きな糧になると感じています。

最後になりましたが、今回の発表にご指導いただいた呼吸器外科の先生方をはじめ、多くの先生方、教育研修部の皆様、本当にありがとうございました。



# 病院祭を開催しました

病院祭実行委員会

10月18日(土)、嬉野医療センターでは地域の皆さまとの交流を目的に「病院祭・嬉看祭」を開催しました。今年のテーマは「みんなでつなげよう地域と医療!!」。午前中は雨が降り天候に恵まれませんでしたが、職員一同の準備により無事開催することができました。

そして天候の心配をよそに、600名を超える方々にご来場いただき、大変盛況となりました。

ご来場いただき誠にありがとうございます。

会場では、健康相談や血圧測定など子どもたちにも楽しめるような医療体験コーナーやスタンプラリー、バザー・白衣体験など企画しました。合唱団やまびこ様、美田ん中様、当院看護学生によるステージイベントや嬉野高校和太鼓部の皆様、嬉野消防署様よりはしご車の展示などご協力くださいました皆様に心より感謝申し上げます。

普段は診療の場でしか接することが無い地域の皆さまと、病院祭を通じて交流できたことをとてもよかったと感じております。これからも地域の皆様方により一層信頼頂けるよう職員一同努めて参ります



# 第56回 嬉看祭を開催しました

実行委員長 石本目菜  
副実行委員長 重水陽菜

テーマ「皆嬉(かいき)～みんなでつくる笑顔の輪～」

令和7年10月18日(土)、第56回嬉看祭を開催しました。

このテーマのもと、地域の皆さまと一緒に笑顔あふれる時間をつくることを目指し、物づくり体験(バスボム・マグネットづくり)やフォトスポット、学生によるステージ企画など、幅広い世代の方々に楽しんでいただける催しの準備を進めました。

学校祭当日は、多くの方に来場して頂き、笑顔で交流されている様子が見られ、まさに「みんなでつながる笑顔の輪」を実感できる一日となりました。

今回の嬉看祭を通して、地域の方々とのつながりの大切さを改めて感じるとともに、人との関わりの中で生まれる“笑顔の力”を実感することができました。これからの学びや看護の現場でも、この経験を大切に、相手に寄り添い笑顔を届けられる看護師を目指していきたいと思っております。

ご来場くださった皆さま、そして運営にご協力いただいたすべての皆さまに、心より感謝申し上げます。ありがとうございました。



# 緩和ケア委員会主催 令和7年度 地域連携ケース検討会

## 心不全の ACP とは？～本人の意思を尊重した支援を行うために～

心理療法士 佐藤美紀

緩和ケア委員会が企画・運営しております地域連携ケース検討会を10月9日に開催いたしました。この検討会は毎年開催しており、今年は院内外から約80名の方が参加くださいました。

初めて非がんの事例を循環器内科病棟より事例提供いただき、心不全患者様のACP（アドバンス・ケア・プランニング／人生会議）について考えました。心不全は一般的に急性増悪と寛解を繰り返しながら緩やかに状態が悪化していく疾患であり、経過が長く年単位であることが特徴です。そして、心不全の急性増悪により急激な全身状態の変化があった際に、それが改善可能な変化であるかの判断が難しいことから、がんなどの慢性的な疾患と比較して意思確認のタイミングがとても難しい疾患です。医師、看護師、MSW、リハビリ、心理士、訪問看護スタッフ、ケアマネージャー等チーム医療で心不全の患者様を支える中でACPとして何ができたか、今後ACPをどのように進めていくか等グループワークで活発に話し合いが行われました。

参加者からは、「ACPの内容は難しいと思っていたが、多職種の意見を聞くことで理解を深めることができた。」「嬉野医療センターのACPについての取り組み内容を知ることができて参考になった。」「退院後の患者様、ご家族のことがいつも気になるので、訪問看護スタッフの考えが聞けて良かった。」「医療センターと地域・在宅医療の連携についての検討会をよろしく願います。」「心不全ACP素晴らしい！」との声をいただきました。また、引き続き開催してほしいとのご意見を多くいただきました。

今回もたくさんの院内スタッフが運営にご協力くださり、無事に開催することができました。ありがとうございました。

今後もその人らしさを支えるACP・意思決定支援のために地域の関係機関と情報共有を行い、顔の見える関係性を大切にしたいと思っております。来年度も開催いたしますので是非ご参加ください！



# がん患者会(お茶々サロン)を開催しました

緩和ケア認定看護師 山本愛

今年度、がん患者さんご家族を対象とした、がん患者会(お茶々サロン)を3回開催しました。7月はアピランスケア(治療の副作用による外見の変化に対するケアのこと。今回は主にメイク方法について)、9月は栄養士からのお食事に関する講話、11月は麻酔・緩和医療科 山口奈央子先生による講演会「あなたらしく過ごすために～がんと診断された方へ緩和ケア～」を行いました。講演会の参加者からは、「診断された時からの緩和ケアなんですね！他の人にも教えたいです。」等、緩和ケアのイメージが変わったという意見を多く頂きました。また、レクリエーションとしてフクロウやクリスマスツリー作りを行いました。毎回皆さんに楽しく参加していただけるような企画を考えております。

お茶々サロンでは患者さん同士の交流によって悩みや思いを共有したり、がんに関する情報提供を行っております。当院通院中だけでなくも参加していただけます。来年度も開催いたしますので患者様とご家族への情報提供をお願いいたします。



# 令和7年度 院内災害訓練を開催して

嬉野医療センターDMAT 業務調整員 一番ヶ瀬智和



10月10日(金)に杵藤地区消防本部と合同で、令和7年度院内災害訓練を開催しました。今年度の訓練は、豪雨・土砂災害に伴う家屋倒壊等により30名超の傷病者が発生したという想定で、患者の搬送と受け入れに加え、その後の診療が適切に実施できるかを確認しました。今年度は天候にも恵まれ、病院外の駐車場には杵藤地区消防本部の皆さまによって、救護所テントが設置されました。また、院内では重症・中等症・軽症などトリアージ<sup>\*1</sup>の結果に応じて職員がエリアを展開し、模擬傷病者の治療にあたりました。

DMAT 隊員養成研修では、CSCAという概念を繰り返し指導されます。それぞれ、C(Command & Control 指揮と統制)・S(Safety 安全確保)・C(Communication 情報伝達)・A(Assessment 評価)の頭文字からなり、有事の際に隊員はCSCAを念頭に置いた活動が求められます。今回の訓練でも、所定の書式を用いて病院の被害状況や傷病者の受け入れ数、職員の出勤状況などの情報を体系的に収集しました。そこで得られた情報をもとに、指揮命令系統の確立と安全の確保、必要な情報の収集と伝達・評価という、CSCAを意識した活動ができました。また、CSCAの確立と同時に、EMIS(広域災害救急医療情報システム)に被害状況の入力も行い、院外への情報発信の訓練も併せて実施しました。EMISは今年度、新しいシステムに移行したため、従来の機能との相違点なども説明しながら、入力してもらいました。

今年度の訓練では杵藤保健福祉事務所をはじめ、近隣の災害拠点病院や二次医療機関などから、多数の見学者が来院されました。有事の際、関係する機関との連携は極めて重要であり、平時から「顔の見える関係」を構築しておくことが、災害時のスムーズな活動につながります。今回の見学には、医療職だけでなく、事務職員の方も多数お見えになりました。当院の訓練が、顔の見える関係を構築するための契機になれば、訓練を企画・立案したものの一人として大変ありがたいことだと思っています。次年度以降の訓練でも、近隣施設からの見学は積極的に受け入れるとともに、他施設の方にも訓練自体に参加して頂くなど、より充実した内容にしたいと考えています。

月並みな表現ですが、災害はいつ起こるか分かりません。来るべき災害に備えて、今後も定期的な訓練を実施するとともに、日々の準備に努めていきたいと考えています。

<sup>\*1</sup> 災害発生時などに多数の傷病者が発生した場合に、傷病の緊急度や重症度に応じて治療優先度を定めること。  
(出典：東京都保健医療局)

# クリスマスコンサートを開催しました

5 西病棟 下平沙織

令和7年12月12日(金)、1階エントランスホールにて、入院・外来患者さんとそのご家族を対象にクリスマスコンサートを開催しました。本コンサートは、音楽を通して心安らぐひとときを提供し、癒しの場となることを目的として企画しました。新型コロナウイルス感染症の影響により開催を見送っていた期間を経て、昨年6年ぶりに再開し、今年度も昨年に続き無事開催することができました。年末を迎え、病院にいらっしゃる患者さんやご家族に、少しでも季節の温かさを感じていただけるよう準備を進めてきました。

当日は、看護学生によるハンドベル演奏をはじめ、ピアノ演奏、グループによるバンド演奏など、多彩なプログラムが披露されました。また、地域の皆さんによるボランティア演奏も行われ、会場は一層温かく和やかな雰囲気に包まれました。クリスマスソングを中心とした演奏がエントランスホールに響き渡り、来場された方々は穏やかな表情で音楽を楽しまれていました。患者さんやご家族が笑顔で演奏に耳を傾ける姿も多く見られ、「心が癒された」「楽しい時間を過ごすことができた」といった声も聞かれました。

今回のコンサートは、看護学生や地域ボランティアの協力のもと実現したものであり、地域と医療機関とのつながりを感じられる機会ともなりました。今後もこのような取り組みを通して、患者さんやご家族の心に寄り添った医療サービスの提供に努めていきたいと考えています。この場をかりて、協力して頂いた関係各位、そしてボランティアで演奏して下さいました、岡様、嬉野市民吹奏楽団の皆様、Hour glassの皆様、看護学生の皆様に深く感謝を申し上げます。



# 令和7年度 誓いの式

第73回生代表 百田心 永田秀太

令和7年10月31日(金)に、病院職員の皆様や地域の方々、家族、そして在校生に見守られながら「令和7年度誓いの式」を挙行することができました。

キャンドルサービスでは、ナイチンゲールから灯火を継承し、看護の責任の重さと尊さを胸に刻む、厳かで温かな時間となりました。

式では、私たち39人で考え“誓いの詞”に込めた「その人らしさを尊重する姿勢や科学的根拠に基づいた知識・技術の習得、そして地域に根差した看護を実践する決意」を述べたことで、改めて強く心に留める機会ともなりました。

今回の誓いの式では、日頃よりお世話になっている地域の方々をお招きし、多くのお祝いの言葉を頂けたことを学生一同大変嬉しく思いました。“誓いの詞”に記した「同じ土地で暮らす人々の生活に関心を持ち、地域に根差した看護を提供します」を実現するために、地域の方々と関わり合い、暮らしや考えを理解することが重要であるということも改めて実感しました。

これからも地域の方々とのかかわりを貴重な経験として、自分達の成長につなげていきたいと思っております。



嬉野医療センター附属看護学校73回生 誓いの式 令和7年10月31日

# 嬉野医療センター 外来診療担当医表

▶▶ 紹介状・予約が必要です ◀◀

2026. 2. 1 ~

区 分	月	火	水	木	金
総合診療科	午前 黒木 和哉 井手 則子	本村 壮	黒木 和哉	本村 壮	黒木 和哉 永田 芽生
呼吸器内科	午前 佐々木 英祐 中富 克己	小宮 一利 旭 亮祐	佐々木 英祐 (再診) 中富 克己	佐々木 英祐 小宮 一利	中富 克己 小宮 一利
消化器内科	午前 田中 雄一郎 (消化管) 行元 崇浩 (消化管) 田崎 陽 (肝臓・胆嚢・膵臓)	網田 誠司 (消化管) 有尾 啓介 (肝臓) 嶋倉 茜 (肝臓・胆嚢・膵臓) 榎藤 佳澄 (消化管)	嶋倉 茜 (肝臓・胆嚢・膵臓) 朝長 道人 (消化管) 山本 優香 (消化管)	網田 誠司 (消化管) 有尾 啓介 (肝臓) 行元 崇浩 (消化管) 朝長 道人 (消化管)	田中 雄一郎 (消化管) 榎藤 佳澄 (消化管) 田崎 陽 (肝臓・胆嚢・膵臓)
循環器内科	午前 山口 実佳 田栗 明奈	下村 光洋 井上 洋平	中島 史暁 不整脈外来 (再診) 新里 広大	下村 光洋 中島 史暁 山口 美佳 (ペースメーカー)	井上 洋平
心臓血管外科	午前	高松 正憲 古賀 佑一			高松 正憲 古賀 佑一
糖尿病内 分泌内科	午前 井上 瑛 (新患)	池岡 俊幸 (再診)	池岡 俊幸 (新患) 井上 瑛 (再診)	池岡 俊幸 (再診)	井上 瑛 (再診)
リウマチ科・内科	午前 庄村 史子	西畑 伸哉	荒武 弘一朗	荒武 弘一朗	庄村 史子 (再診) 西畑 伸哉
神経内科	午前 小杉 雅史 (新患) 津村 圭亮 (再診)		小杉 雅史 (新患) 津村 圭亮 (新患)		小杉 雅史 (再診) 川浪 建 (新患)
腎臓内科	午前 野中 康徳	広松 悟 小野 桃子	広松 悟 荒木 敬祐	野中 康徳 小野 桃子	野中 康徳 (再診)
小児科	午前 土井 大人 初診：各月当番医	森田 駿 初診：各月当番医	川崎 祥平 初診：各月当番医	西川 小百合 初診：各月当番医	浦島 真由美 初診：各月当番医
	午後 小児循環器外来 小児腎臓外来 (第2) 小児アレルギー外来 予防接種外来	乳児健診 小児アレルギー外来	小児循環器外来 (第1・2・3・5) 小児アレルギー外来	小児アレルギー外来 (第1・2・3・5) 小児神経外来 小児循環器外来	小児代謝・内分泌外来 小児アレルギー外来 (第1・3)
呼吸器・乳腺外科	午前 近藤 正道 板倉 彩	近藤 正道 板倉 彩			
	午後 近藤 正道				
消化器外科	午前		黨 和夫 内田 史武	原 亮介 深野 颯	大野田 貴
整形外科	午前 村田 雅和 高平 祥太郎 田中 史織	小河 賢司 松尾 大地 弦本 直治	古市 格 村田 雅和 田中 史織	小河 賢司 弦本 直治 高平 祥太郎	古市 格 村田 雅和 松尾 大地
脳神経外科	午前 川野 陽祐	宮園 正之		宮園 正之 岸川 颯 (再診)	川野 陽祐
皮膚科	午前 西島 君耶 (新患)	西島 君耶 (再診)	西島 君耶 (新患)	西島 君耶 (再診)	西島 君耶 (新患)
形成外科	午前 赤司 理菜 (非常勤)				
泌尿器科	午前 林田 靖 (新患) 上田 康史 (再診)	林田 靖 (再診) 上田 康史 (新患)		林田 靖 (再診) 上田 康史 (新患)	林田 靖 (新患) 内田 直子 (再診)
	午後 上田 康史 (再診)			林田 靖 (再診)	
婦人科	午前 一瀬 俊介	中島 久良		野口 菜美	大橋 和明
産科	午前 野口 菜美	大橋 和明	助産師外来 (9時~16時)	大橋 和明	野口 菜美
	午後 母乳外来 (14時~16時)	助産師外来 (14時~16時)		母乳外来 (14時~16時)	助産師外来 (14時~16時)
眼科	午前 岩切 亮		岩切 亮		岩切 亮
	午後 岩切 亮 (再診)		岩切 亮 (再診)		岩切 亮 (再診)
耳鼻咽喉科 (午後13:00~16:00)	午前 吉見 龍二 牟田 倫花	吉見 龍二 牟田 倫花	耳鼻科外来 (新患)	吉見 龍二 牟田 倫花	吉見 龍二 牟田 倫花
	午後		吉見 龍二 牟田 倫花		
放射線科	午前・午後 診療	午前・午後 診療	午前・午後 診療	午前・午後 診療	午前・午後 診療
術前診察		午前診療			午前診療
緩和ケア	午前診療	午前診療	午前診療	午前診療	午前診療
ペインクリニック	午前 香月 亮 北村 静香	香月 亮 北村 静香			香月 亮 北村 静香
入院評価		午後診療		午後診療	
救急科 (8:30 ~ 17:15)	藤原 紳祐 山田 成美 小牧 萌絵	藤原 紳祐 山田 成美 小牧 萌絵	藤原 紳祐 山田 成美 小牧 萌絵	藤原 紳祐 山田 成美 小牧 萌絵	藤原 紳祐 山田 成美 小牧 萌絵
歯科口腔外科	午前 井原 功一郎 森 啓輔	井原 功一郎 森 啓輔	井原 功一郎 森 啓輔	井原 功一郎 森 啓輔	井原 功一郎 森 啓輔
	午後	井原 功一郎 森 啓輔			井原 功一郎 森 啓輔